

HUKARI

梅光学院 学院報

2019.10 / vol.4



梅光学院大学

「新校舎特集」

クロスする学び・光・風

学びを変える、
働き方を変える、
場が人を成長させる。



梅光学院

新しい教育への挑戦

梅光学院大学の新校舎“The Learning Station CROSSLIGHT”が本年3月末に完成し、4月から新しい学びの場がスタート。

「場が学びを変える、働き方を変える、人を成長させる」をコンセプトに、新しい時代の学びと働き方を創り出す。

ひぐち のりこ
学長 **樋口 紀子**

1982年、梅光女学院大学(現:梅光学院大学)英米文学科を卒業。同大学院英米文学専攻修士課程を修了。学院長・大学長・中学校・高等学校長を兼任する傍ら、教会で牧師も務める。

日本発の試みの事務室

1階のフリーアドレス制の事務室はTS(teaching staff:教員)とMS(management staff:職員)が一緒になり、**学生を支援していく場**です。その時の仕事の内容や支援の種類、また気分によって、毎日TS・MSの居場所が異なります。特にTSはすべての個人研究室を廃止し、**1階を共同研究室としました**。ここでTSはMSと共に学生の生活や学びをサポートします。TS用の個人本棚を配置しているので、TSの担当授業、研究分野、興味の対象などが本や個人の持ち物を通して**“見える化”**するというオープンライブラリーの役割も果たします。それによってコミュニケーションが生まれ、あるいは相互に刺激も受け、**教育や研究が学生へと伝播していく**という仕掛けです。



さらに1階には生協さんにご協力いただき、夜まで開いている**カフェレストラン**もオープンしました。授業の合間にほっとできる場所ができただけでなく、ゼミの授業やTS・MSとの相談の場所としても使われ、学生が学内に滞在する時間が圧倒的に長くなっています。

自主的な学びを促す仕掛け

2階はガラス張りの教室が**“教育の見える化”**を図ると同時に、**見たり・見られたり**の関係性の中で**学びに対する意欲を向上**させます。椅子は365種類の異なるものを配置し、その時の気分や学びの内容に合わせて好きなものを選ぶことができます。ジグザグ型の廊下や階段も教室です。場所が変わることによって学び方も発想も変わっていき、いろいろな仕掛けが学生の自主的な学びを促します。3階はすべてオープンスペースなので履修登録生以外、誰でも授業の様子を見たり聞いたりすることができ、場合によっては参加も可能です。壁はなくても天井や床の高さ、ジグザグな廊下の造りが一つの教室のまとまりを保つように工夫されているので、他のエリアの声が紛れることはありません。

本格的なAI時代の到来を前に、教育・働き方・生活などにおいて人は発想を変えようという大きな転換を迫られています。それを梅光学院大学はこの新校舎から始め、**どこにもない、今まで誰もやったことのないことに挑戦**しています。それによってこれからの**大学教育の在り方を世界に問い続ける大学でありたい**と思っています。





こぼり てつお
建築家 **小堀 哲夫**

1971年生まれ。法政大学大学院工学研究科建設工学専攻修士課程修了後、久米設計に入社。2008年に独立し、(株)小堀哲夫建築設計事務所を設立。2017年度、国内二大建築賞「日本建築学会賞」「JIA日本建築大賞」を史上初めて同時受賞。2018年には「JIA日本建築大賞」を2度目の受賞。ほか受賞多数。

新校舎設計に向けた構想

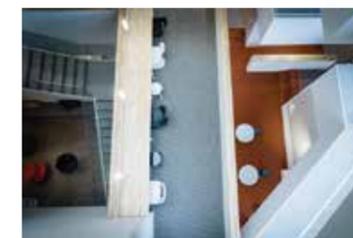
これまででも教育空間は何度が設計をしていますが常々、教育の問題だと感じているのが「学生が学びに対して、楽しそうに取り組んでいない」という点です。そこをどうやって打破するかが一番大きな課題であり、「CROSSLIGHT」の設計に際しては、学ぶ環境、つまり「**『学び』って楽しい**」と思える面白い場を造るというところから発想していきました。また梅光学院大学は下関市の中心に位置していることから、この地から人と人の出会いや気付きが生まれ、地域活性化の起爆剤になるはずとも考え、入り口付近にカフェレストランを設置するなどの建物動線を取りました。

こうしたコンセプトと共に、学生や教職員とのワークショップでの声もふまえ、校舎は「**ワクワクする、好奇心をかきたてられる環境、空間づくり**」を追求しました。例えるならば遊園地のように、1つとして同じもの(アトラクション)がない空間です。全体が俯瞰できないので「この先に何があるのだろう、行ってみよう」と思ってもらえる仕掛けを考えました。

それが聖書の言葉に由来する**AからZまでの教室、毎日違うものを選んで座れる椅子**の導入など、これまでにないアクティブラーニングの挑戦へとつながりました。

屋根は45度と90度のグリッド(格子)を重ねることで斜めにずれて配置され、鋭角に8方向性を持たせたデザインにしました。

このずれから生まれた空間により人、光、風がクロスする**光のラビリンズ(迷宮)**に近いものを建物全体で表現できたと思います。



今後、新校舎や学生に期待すること

新しい環境で、常に新しいことが起きるといサイクルができ、学ぶことの楽しさ、モチベーションの向上に寄与できればと思っています。実際に校舎を利用している学生の様子を見ると、私たちが予想していなかったような使い方をしていて、こちらも新しい発見があり、梅光学院大学を訪れるのが毎回楽しみです。

大学生は、子どもから大人への成長段階。面白いと思うことを見つけ、**学びや遊びの情熱につなげてもらいたい**と思います。

それが卒業後の人生でも難局を乗り越える力になるはずです。



ワクワクする、
好奇心をかきたてられる
環境・空間づくり



人との交わりの中で放たれる 光をコンセプトに命名



ふじわら よしつぐ
文学部長 **藤原 義嗣**

1988年4月下関市立大学に入学し「朝鮮語」を履修。卒業後は10年間韓国に滞在し、ソウル・延世大学校韓国語学堂で韓国語を学ぶ。滞在中は日本語教師やテレビレポーターなども経験。2004年3月帰国。4つの大学での非常勤講師を経て、2007年4月から梅光学院大学で専任教員として韓国語を教える。

ネーミングの意図

一昨年、新校舎建設という一大事業が開始し、これまでの学校建築の概念を覆す、全く新しいタイプの校舎が小堀哲夫建築設計事務所から提案されました。私もワークショップに参加し、新校舎の模型を見せていただきながら、そのコンセプトを幾度となく伺い、完成後に実践される新しい教育や学び、働きについて学生や教職員の仲間たちと共に考える機会を得ました。

建設が進むなかで、誰からも親んでもらえるような愛称を学生・教職員から募集することになり、光栄なことに私の応募した「**The Learning Station CROSSLIGHT**」に決まりました。

「CROSSLIGHT」は造語で、本学が三位一体の神によって建てられたキリスト教の学校であり、これからミッションを帯びて歩いていくことを意識してアイデアを練り、学院のモットー「光の子として歩みなさい」から「light(光)」と「cross(キリストの十字架)」をつなげて「**CROSSLIGHT(十字架の光)**」が生まれました。

新校舎の模型からは射し込みあふれる光の中で、学生や教職員、そして地域の人々が縦横に交わり(cross)、また新たな光を放つ風景がイメージでき、私はこの化学反応こそが「**CROSSLIGHT**」効果なのだと思います。

頭に「The Learning Station(学びの駅)」と付けたのは文字通り、人々が行き交う場所である「駅」としての役割や、その駅から学生た



ちが地域、世界へと大きく旅立っていく姿も想像できたからです。そして本学が立地し、長く地域に親しまれてきた「東駅」という地名にちなんで、地域の皆様のお役に立てるのではないかと、という期待も込めました。

CROSSLIGHTへの想い

新校舎での日々は感動や発見の連続ですが、とても楽しく新鮮です。教え方や学び方、働き方など、**学校における活動のすべてが新しいスタイル**へと変わってきています。まさに「CROSSLIGHT効果」が表れているのです。学生たちには既成概念や固定観念をどんどん壊し、もっともっと**CROSSLIGHT的な発想や思考**で、さまざまなことに取り組んでほしいと願っています。また、私たち教職員もCROSSLIGHT的な教育や働きを志向し、学生たちと共に世を照らす光を絶えず放っていきたくと思います。新しく生まれ変わった梅光学院大学に、卒業生や地域の皆様も、ぜひお立ち寄りください。

学内にゆっくり くつろげる場所を



はなお みつる
梅光学院大学生協同組合 専務理事 **花尾 満**

2002年山口大学生協入協、2016年梅光学院大学生協専務理事(下関市立大学生協・水産大学校生協兼任)

カフェレストランについて

CROSSLIGHTの1階にある**Pane di Vita**はカジュアルイタリアンを基調としたカフェレストランです。学生・教職員の皆さんはもちろん、地域の方まで幅広く気軽にご利用いただけるお店になるように日々精進しています。

雰囲気はこれまでの学食にないものを意識し、メニューも飽きることなく楽しんでいただけるよう週替わりのメニュー展開となっています。学生さんたちは授業の合間に食事やコーヒー、ケーキを食べながらお話をしたり、勉強をしている姿も見受けられ、学内にゆっくりくつろげる場所ができたのかなと思っています。

コーヒーは、地元山口県のコーヒー専門店(徳山コーヒーボーイ様)にご協力いただき、**梅光オリジナルブレンド**をお出ししています。教職員の皆様を中心に試飲やご意見を伺いながら独自にブレンドした商品です。ぜひおいしいコーヒーをお召し上がりください。懇親会のご利用も可能ですので、皆様でお集まりになる際には、Pane di Vitaでパーティを開催されてはいかがでしょうか。アルコール(ワインやイタリアビールのモレッティ)も取り揃えています。

営業時間

[平日] 9:00~21:00 [土曜日] 11:30~19:00
[定休日] 日曜日、年末年始など

出店までを振り返って

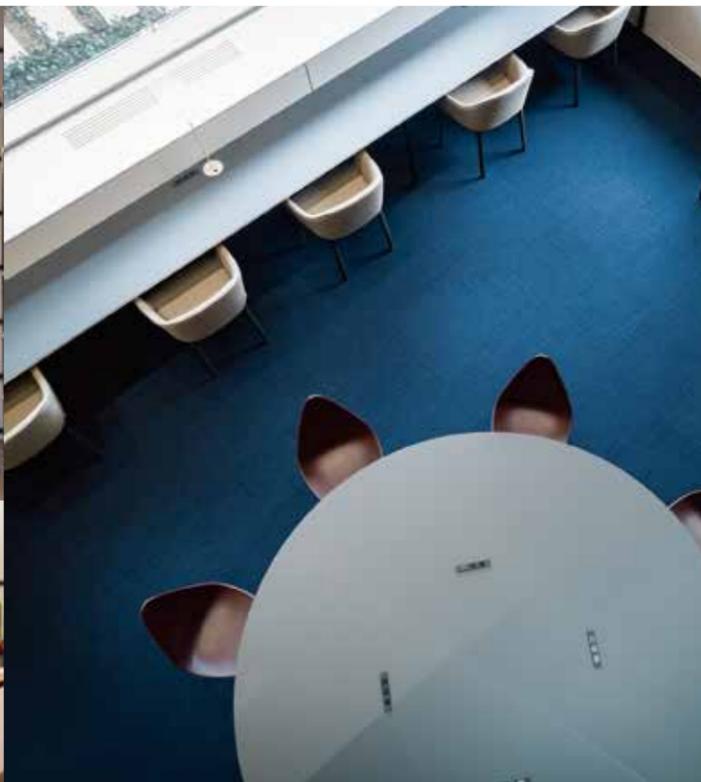
大学からカフェレストラン出店のお話をいただいた際、期待に応えられるのか、うまく経営していけるのか、大きな不安もありました。生協理事会でも長い時間をかけて協議してきましたが、今後何十年と大学の拠点になる校舎に、生協がお店を持つ意味があるのではないかと結論に至りました。

今はメニューの開発やお店の運営で精いっぱいですが、生協らしく組合員が参加・参画して親しみやすく、**皆様から愛されるカフェレストランになれば**と思います。それはきっと大学が考えているCROSSLIGHTのコンセプト(学生の居場所や主体的な学び)にも沿えるはずで、地域の方からも「**おいしい、雰囲気が良いからまた来たい**」と言っていただけるようなお店にしていきたいと思っています。



\\ 学ぶ場所も自ら選ぶ!

個性的な各フロア紹介 //



1F Grand Staircase 階段

1階から2階へと続く大きな階段も教室の一部。学生達はノートパソコンを活用しているので、こうした場所での授業が可能。ここでは自然と顔が上がり、よりコミュニケーションを重視した授業が展開されます。



プロジェクターとスクリーン、椅子の備え付け! 学びの場として活用!

Trattoria Pane di Vita

聖書に記された「命のパン」を意味する「Pane di Vita」。まるでイタリアのトラットリア(大衆食堂)のような明るい雰囲気の中、さまざまなコミュニケーションが生まれます。天気のよい日には、テラス席や階段上になったベンチもオススメ。

この建物を見て学校というイメージが変わりました。留学生としてこんな校舎で勉強できることを嬉しく思います。教室のプロジェクターと自分のパソコンをつなぐことができるので、発表がしやすいですし、休み時間に好きな映画を見ることもできて本当に便利です。

国際ビジネスコミュニケーション専攻/2年
K・C KISHOR (ケー・シー キショール)さん



Studio エリアI・K・L・N

100人収容と50人収容の「スタジオ」(教室)がそれぞれ2教室ずつあり、いずれもガラス張り。オーディエンスに見られることでより一層緊張感が生まれます。



CROSSLIGHTはどこを見ても開放的で、おしゃれな新しい環境とスタイルで授業を受けられるのが魅力の一つだと思います。集中しやすい自習スペースと、サークルのミーティングで使う3階のエリアVは、座っていても全員の顔がお互いに見えるので、特にお気に入りの教室です。

国際ビジネスコミュニケーション専攻/3年
沈 珩彬 (シムウービン)さん



CROSSLIGHTプロモーションビデオ完成!

CROSSLIGHTはガラス張りで明るく、とても過ごしやすいです。私はエアライン業界への就職を目指すエアライン研究会のリーダーを務めており、毎回エリアLを使っています。ここでは、私たちの夢の実現へつながるステージだと思っています。

国際ビジネスコミュニケーション専攻/3年
國田 莉央 (くにだりお)さん



見る・見られる効果に期待!!

Stool Tool エリアR

下の段に座って、上の段にはノートパソコンを置いて、デスク代わりに。椅子とデスクの用途をひとつのデザインとして兼ね揃えた空間。



中高生にも開放！

CROSSLIGHTで学ぶ梅光の中高生

CROSSLIGHTは梅光学院中学校・高等学校の生徒も学びの場として利用しています。

今後は地域の中高生にも開放していく予定です。



高校1年生

芝田 彩 さん
(しば あや)

大学の校舎というよりも、博物館のような感じがしましたが、授業によって通じた教室があると知り、ここで授業を受けてみたいになりました。僕は3階の丸い机がたくさんあるエリアWが好きです。みんなで勉強を教え合ったり、話し合うのに最適な場所だと思います。

CROSSLIGHTにある椅子は座り心地が良く、長時間集中して勉強ができます。教室にはプロジェクターがあり、友達と勉強を教え合うのにも便利です。



高校2年生
廣田 友喜 さん
(ひろた ともき)



高校3年生
西村 美鈴 さん
(にしむら みすず)

私がいつも利用させてもらう3階は人が少なく静かで、市立図書館よりもずっと落ち着けます。自然光が差し込んでとても明るく、空調もあるので快適です。集中できる環境だと思います。

雰囲気はインターナショナル！

梅光学院中学校・高等学校の



梅光学院高等学校は帰国生や留学生を多く受け入れています。

彼らはすぐに梅光にとけこみ、日本の文化に親しみながら梅光生とともに成長しています。



【シンガポール】
高校1年生 古谷 のぞみ さん

友人達のサポートもあり、
帰国生でも楽しく過ごせる

先生をはじめ先輩・友達が優しく色々サポートしてくださるので、楽しく学校に通うことができている。英語に数多く触れる機会があるということも、とても良いと思います。また、学内の先輩・後輩の上下関係というのは海外ではなかったので、梅光に入学して日本ならではの文化を理解することができました。



【ネパール】
高校1年生 Sapkota Rabinさん

先生・友達のフレンドリーな人柄と
静かな環境で勉強もはかどる

梅光のみんなはとてもフレンドリーで、ゲームを行ったりして楽しい時を過ごし、友達と良い思い出ができました。校舎は静かな環境で、勉強もはかどります。日本人は本当に控えめでマナーが良く、他人に対し敬意を払い、とても親切な方が多いと思います。



【フィリピン・ベトナム】
高校2年生 坂本 美智子 さん

先生方のサポートで安心して
学校生活を送れる

海外生活が長く、日本語がとても苦手だったのですが、先生方がとても優しく対応してくれたので安心しました。先輩・友達も気軽に話し掛けてくれたので、梅光にはとても良い人が多いと感じました。学校以外の生活においても、日本人の優しさやマナーの良さは素晴らしいと感じています。





Adventure Education

アドベンチャー教育で可能性を見出す

世界一面白い学びができる、素晴らしい人と出会える場所。

そしてローカルからグローバルへ、グローバルな教育の場を創る。



なんぼ かつみ
難波 克己 文学部特任教授

学校教育研究、集団形成論、アドベンチャー・リーダーシップ

高校卒業後、(株)ヤマセに3年勤務。1979年に留学しアメリカの大学で学士と修士課程を修了後、プロサッカー選手とコーチをしながら博士課程を終えて帰国。1995年発足の「プロジェクトアドベンチャー・ジャパン」でアドベンチャー教育*の普及と指導に関わる。玉川大学を経て梅光学院大学に2019年度から就任。

※1970年代のアメリカから発祥した「体験から学ぶ」ことを提案する教育

留学が珍しかった1970年代、自費での留学を志す

高校を卒業後、働きながら横浜YMCA(キリスト教青年会)で英語の独学と青少年社会教育のボランティアリーダーをし、夢だった留学を経験しました。

帰国後はアドベンチャー教育の実践や指導、研究に関わり、スポーツ心理や脳科学情報を取り入れたチーム形成、人と人を繋げるコミュニケーションの領域を実践中です。

専門領域はスポーツ心理学やコーチング心理、体験教育などで、梅光学院大学では「学校教育研究」、「集団形成論」、「アドベンチャー・リーダーシップ」などを担当しています。



様々な体験を通じて、知識を身につけてほしい

昨今の学生は、育ってきた環境から、経験、体験により身につけて学んだ知識が少ないように感じますが、むしろモチベーションによっては**スポンジのように伸びる力**を持っており、それを刺激すれば**成長に限界はない**と思います。

自己の持つ能力とポテンシャルを信じ、何でも挑戦して自分自身を大きく成長させ、**社会に貢献してほしい**です。





楽しく英語を学べた

中学・高校生活。

おきはら ちあき
沖原 千明さん 梅光女学院(現・梅光学院)高等学校
2008年度卒業

北九州市出身。2013年北九州市立大学卒業。同年、日本航空株式会社入社。客室乗務員としてアメリカ、ヨーロッパ、東南アジアなど主に国際線に乗務している。

中学・高校時代を振り返って

私が中学、高校に在学していた頃は、外国人の先生が常に2~3人校内におられました。いつでも英語で会話ができる先生たちの部屋「English Room」へ行くと、気後れすることなく英語を話す練習ができました。当時私は思春期でもあり、英語で話しても間違えることを恥ずかしいと思うこともありましたが、先生方から「間違っても恥ずかしくない。楽しく会話することが大事。」ということを教えてくださいました。



就職した今、思うこと

就職活動を始めた際、幼い頃から学んできた英語を生かした仕事に就きたいと考えていました。また人と話すことが好きなので、様々な国を訪れ世界中の人々とお話をしながら、異文化にも触れることができる客室乗務員になりたいと思い、志すようになりました。現在、日々乗務する中で、機内で外国籍のお客様に接する際や、宿泊先の海外で英語での会話を楽しめているのは在学当時学んだ「間違えることを恐れず、楽しく会話をする」という精神が身に付いているからだと思います。



メッセージ

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催時には、今よりさらに多くのお客様とお会いできると思います。世界中の方々に、日本航空のサービスは素晴らしいと思っていただけるような心遣い、丁寧なサービス、美しい所作、言葉遣いを今後も学んでいきたいです。在校生・在学生・卒業生の皆様と空の上でお会いできる日を楽しみにしております。

社会人として活躍する 卒業生にインタビュー

大学に入るまでを振り返って

私は子どもの頃からグローバルに活躍する人になりたいと希望していましたが、1990年代の韓国は日本文化を正式に受け入れておらず、1998年からやっと映画やアニメが解禁された時代でした。当時の私にとって日本の文化はとても新鮮で、高校卒業後は日本への留学を決意し、日本語を勉強し始めました。日本に来てからは世界の広さを感じ、より広い世界を知りたいという目標ができたため、大学で英語を専攻しました。在学中は時間がある限りネイティブの先生方のオフィスやEEC(English Education Center)で過ごすことで、自然と英語で話すことが多くなり、海外の人とコミュニケーションを取ることも自信がつかしました。

就職した今、思うこと

より広い世界で活躍できる海外営業職を志し、現在はトラックメーカーとして知られるいすゞ自動車に勤めています。海外営業職で最も必要なのはコミュニケーション能力であり、大学での学びが今の支えになっています。入社以来、継続して海外営業職で欧米を担当し、さまざまな国とのビジネスを経験しましたが、まだまだ未経験の国もいっぱいあります。今後もグローバルリーダーとして活動領域を広げ、世界の産業に貢献していきたいです。

メッセージ

梅光学院大学には、やりたいことを実践できる環境があると思います。私は英米語学科で英語を専攻しましたが、簿記や経済学などにも興味があり、先生に相談して別途勉強会を開いていただきました。就職活動の際はエントリーシートや面接のチェックを何度もしていただいたおかげで、就職活動が成功したと思っています。やりたいことがあってやり方が分からない時は、先生たちに助けを求めてください。自分の志と熱意があれば、梅光学院大学の先生たちは全面的に応援して下さります。



世界の広さを実感。

夢の海外営業職に就職。

ウ ジェグォン
禹 濟権さん 梅光学院大学国際言語文化学部英米語学科
2009年度卒業

韓国・ソウル出身。日本の映画やアニメをきっかけに日本語の勉強を始め、高校卒業後、日本へ。大学卒業後、(株)堀場製作所(京都府)を経て2017年1月からいすゞ自動車(株)(東京都)PT営業第三営業部に所属し、海外向けに産業エンジンを販売する仕事に携わる。





後輩の未来のためのご寄附にご協力ください。

ごあいさつ



ひぐち のりこ
樋口 紀子 梅光学院 学院長

皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと、心よりお慶び申し上げます。

梅光学院では、2017年より生徒・学生の活動支援の拡充を目指して募金活動を行っており、これまでに多くのご寄附を賜りました。この間、ご支援賜りました皆様にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。本学の募金活動は、国内外での生徒・学生の教育、学習及び生活に関する支援の充実を図る事業等を対象とさせていただくものであり、これらの事業を通じて、地域、そして世界で活躍できる人財の育成に努めてまいります。本学の意をご賢察くださり、募金活動にご協力、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

事業概要

募金名称: 梅光学院大学 新校舎建設及び学内整備募金

募金目的: 梅光学院大学新校舎建設及びそれに伴う施設・設備の充実に資する資金調達のため

募金目標額: 1億円

募集期間: 2018年4月1日から2021年3月31日まで

主な募金事業(予定)



皆様からのご寄附は、新しい学習空間を持つ3階建ての**新校舎建設、本館整備、セントラルパーク(仮称)の整備**等、大学・大学院における学内施設や設備の充実に充てさせていただきます。

※画像はイメージです。

募集要領

本募金は**本学ホームページ(以下HPと称する)**、又は同封しております**払込用紙**から行っていただけます。下記お申し込み方法等ご確認の上、ご協力の程、よろしくようお願い申し上げます。

1 寄附金額・申込方法

【個人】 1口 3,000円以上(千円単位)

【法人】 1口 20,000円以上(千円単位)

【HPの場合】 本学HP内の、「新校舎建設等学内整備募金」→「寄附金申込フォーム」から、お申込みください。

2 払込方法

【HPの場合】 本学HP内の、「新校舎建設等学内整備募金」より可能です。(※但し、**クレジットカード決済のみ**となります。)

【銀行振込の場合】 本学院報に同封しております払込用紙をご使用ください。また、事前にHP内の「お問い合わせ・払込用紙請求 申込フォーム」にご入力いただける場合は、払込用紙への詳細情報の記入の一部を省略することが可能です。

(※詳細は、本学HP内の「新校舎建設等学内整備募金」をご覧ください。)

3 寄附金の免税措置

本ご寄附につきましては、個人・法人それぞれ税制上の**優遇措置**を受けることができます。

ご入金のご確認ができた時点で、**寄附金控除証明書**及び**領収書**を発行いたしますので、所得税の確定申告の際にご利用ください。

【法人の場合】 法人税法第37条第3項第2号により、寄附金の全額を損金として算入できます。

【個人の場合】 個人が行った寄附金については、「寄附金控除」の制度が設けられています。

確定申告の際、「税額控除」と「所得控除」のうち、いずれか一方の制度を選択し、適用を受けることができます。

※詳しくは**文部科学省のホームページ「寄附金関係の税制について」**をご確認ください。

寄附者の顕彰について

ご寄附をいただいた方については、寄附者の**ご芳名・寄附金額**を本学広報誌等に掲載し、公表させていただく場合もございます。

お差し障りがございましたら、お手数ですが下記お問い合わせ先までご連絡をお願い致します。

募金に関するお問い合わせ: **梅光学院 財務部**

[TEL] (083) 227-1001 [FAX] (083) 227-1081

編集後記



ほんま まさお
本間 政雄 学校法人 梅光学院 理事長

HIKARI第4号は、大学新校舎CROSSLIGHTの紹介です。CROSSLIGHTは言うまでもなく、大学生の学びの場ですが、卒業生や地域の方にも広く開かれています。今後、旧校舎の取り壊し工事とそれに伴う思索と散策、交流の場としての庭園の整備などがあるため、まだ構想段階にとどまっていますが、レストランでのコンサートや美術作品の展示会の開催、本学の多彩な教授陣による外国語講座、文学作品鑑賞会の開催、学びのスペースの卒業生や地域の方々への開放など計画は盛りだくさんです。レストランも今後メニューを充実して、地域の方にも気軽に足を運んでいただけるような場にします。どうかCROSSLIGHTにご期待ください!

その他、大学生の学生生活をサポートする「**梅光学院大学生サポート募金**」、中高生の生徒活動をサポートする「**梅光学院中学校・高等学校生徒活動サポート募金**」もごございます。

詳しくは下記URL、もしくはQRコードより、ウェブサイトをご覧ください。



[URL] <https://www.baiko.ac.jp/donation/>